

大阪学芸では、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、適切に説明責任を果たして保護者の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて、第三者評価を導入することにより、学校評価全体の充実を図っていきたいと考えています。

1 大阪学芸「学校評価の体系」

大阪学芸では、「自己評価」、「学校関係者評価」及び学校運営に関する外部の専門家等による「第三者評価」からなる学校評価を実施します。

(1) 自己評価 「校内評価委員会(校務会)」

大阪学芸は、校長以下、教職員から構成される校内評価委員会(「校務会議」がその任を担う)を組織する。校内評価委員会は、年度当初に「部門別活動計画」を作成し、1年間の教育活動の目標を設定し、進捗状況を職員会議で報告し共通認識を図りながら年度末に達成状況を検証します。また、教職員による学校評価にとどまらず、生徒による学校評価アンケート、授業評価アンケート、保護者による学校評価アンケートを実施し、本校の目標達成状況等を検証することを通して、学校の現状と課題を明らかにし、教育活動その他の学校運営の改善を図ります。

ア、学校評価の実施に当たるアンケート調査は、総務部と教務部が担当します。

イ、生徒による授業評価・学級経営評価については、その結果を教科担任・学級担任にフィードバックします。

ウ、新任教員については、上記評価表をもとに管理職面談を実施していきます。

エ、生活環境調査の結果は、学校評議委員会等にも報告し学校の自己評価にも活かしていきます。

(2) 学校関係者評価 「学校評議委員会」

大阪学芸は、生徒の保護者やその他の学校関係者等により構成される学校関係者評価委員会(「学校評議委員会」がその任を担う)を組織します。

学校関係者評価委員会は、校内評価委員会による自己評価等の結果を評価することを通して、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校・家庭が学校の現状と課題について共通理解と相互の連携を深め、学校運営の改善への協力を一層進めることを目的として評価を実施します。

ア、学校評議委員会は、学校の理事および現・元保護者により構成します。

イ、任期は、1年更新とする。

ウ、学校評議委員会は、年2回開催し、上記の学校自己評価を含めた学校の現況について意見交換を行います。

(3) 第三者評価 「学校協議会」

大阪学芸は、第三者評価を実施するため、学校運営に関する外部の専門家等による第三者評価者(「学校協議会」がその任を担う)に調査を依頼する。第三者評価者は、各学校の自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえ、より専門的、客観的立場からの評価を行います。

ア、第三者評価委員会は、理事長・校長・法人事務局・第三者委員により構成します。

必要と認められた時は、教頭及び関係教職員を招集します。

イ、第三者委員の任期は、2年とし更新を認めます。

ウ、第三者委員に対する交通費は支給します。

2 中期学校経営方針等への反映

大阪学芸は、学校評価の結果を踏まえた改善策を策定し、「中期学校経営方針」及び「学校経営計画」に反映するよう努めます。

3 学校評価の結果の公表

大阪学芸は、実施した学校評価の結果及び改善策について、ホームページ等適切な方法を用いて公表します。

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」という 1903 年に定められた「建学の精神」をもとに学校教育を通じて、地域社会からの信頼や期待に応えられる学園、生徒が何歳になっても誇りをもって語れる学園、教職員が生徒の満足を自らの喜びにできる学園づくりをめざします。

【生徒像】

- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけた品位ある生徒。
- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒。
- 自主的、自律的な学習態度で学力の向上をめざし、異文化に触れることによって、21 世紀を担う若者にふさわしい国際的な視野を持った生徒。

2 中期的目標

1 生徒指導を根幹に据えた学習指導と進路指導を確立します。

(1) 基本的生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的生活習慣」の確立なくしてあり得ないという教育信念から「挨拶のできる生徒」「人の話を聴ける生徒」「ルールを守れる生徒」の育成に努め、生徒の自己管理能力を高めます。このために「保護者による学園満足度アンケート」「クラス満足度アンケート」「学校生活アンケート」を実施しています。

- ア、生徒にとって最も大切な学校での居場所となる教室が「規律ある状態を保ち静かに学習できる学校」づくりを目指します。
- イ、いじめを許さず、生徒全員が「安心して登校でき、学級で落ち着いて生活できる学校」づくりを目指します。
- ウ、教職員が学校の「学習・生活秩序を守るために毅然とした態度で指導し、生徒から信頼される学校」づくりを目指します。

(2) 学力向上と進路実現

保護者・生徒の信託に応え、生徒が自己実現できる進路先を獲得できるように年 2 回の授業アンケートを実施し、これを基に教員の授業スキルアップに向けて生徒の意見・感想を積極的に取り入れ学力向上を図っています。また、教員間の相互授業参観や教科会の充実、管理職による教員面談(特に新任)等を実施し、授業内容の点検や教授法の改善を行いさらに授業力向上に取り組みます。

- ア、生徒たちが「学力や技能の向上を実感できると満足し信頼できる」授業づくりをめざし、年間授業計画「シラバス」の作成で計画的・効率的な授業内容を保障します。
- イ、生徒の多様な進路希望に対応した放課後講習や管理自習室・e-learning システム・駿台サテネット教室・校内予備校の活用の充実を図り、自学自習の精神を身に着けさせ、自己の進路を自らの力で切り開いていく姿勢を醸成します。
- ウ、2 年進級時に進路目標に応じたコース選択を行わせるとともに進路希望に応じた教育課程を編成し希望大学へ進学できるように対応していきます。

(3) 社会性・協調性の育成

少子化・核家族の影響で現在の高校生たちは、自己中心的な性格になりがちであり、協調性や耐性に欠ける面がみられます。建学の精神にある社会に貢献できる人間を育成するための取り組みを教育活動全体の中で実施し社会性・協調性を高めていきます。

- ア、ボランティア活動やセレッソとのサホーティングマッチ、地域清掃活動を通して社会への関わりを高めるとともに奉仕の精神を育成します。
- イ、部活動を活性化させ、勝利をめざし努力する過程で持続力や耐性を養い、仲間と協力しあう姿勢(協調性)を育成します。
- ウ、体育大会や文化祭等の行事や人権学習会を通して他者への思いやりや協調性、自分の意見をわかるように相手に伝える力(コミュニケーション能力)を育成します。

2 保護者に信頼される学校づくり

(1) 保護者への情報提供

公立小中学校と違い「校区」という地域を持たない高校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえます。特に私学に入学させた保護者から「この学校に入学してよかった」という評価が得られるように保護者への情報提供をもとに教職員が授業や保護者対応、進路指導に実績を上げていくことが信頼される学校づくりの基盤だと考えています。

- ア、授業参観や懇談会を適切な頻度で実施したり、ホームページで子どもたちの様子(各種行事)を発信し学校の様子を知る機会づくりを行います。
- イ、学習指導において学力向上に十分な成果をあげ、子どもたちのやる気を引き出す指導を前向きに取り組むことにより保護者の安心感を高めます。
- ウ、保護者・生徒向けの進路ガイダンスを充実し生徒の進路希望を担当が把握し、保護者の願いと子供の願いを調整する機能を学校が持つことにより信頼関係を築いていきます。

(2) 危機管理体制の確立

地球温暖化の影響から豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ来るかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められています。

- ア、避難訓練を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備えます。
- イ、学校として帰宅困難となる生徒が出た時を想定した避難物資等の準備体制や保護者との連絡体制を整えていきます。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校協議会からの意見】

<p>□基本的生活習慣</p> <p>私立高校の保護者・生徒の願いは「落ち着いた雰囲気の中での学習・生活環境の保障」です。「規律ある雰囲気の中で学級・学校生活を送ることができている」という生徒が 85%と高い評価を得ていますが、満足いくレベルではありません 15%の生徒が否定的回答をしている原因を探り、その改善に尽くしていきます。その原因と考えられるものは「いじめのない学級になっているか」という質問に対しても 11%の生徒が否定的回答を、「行事</p>	<p>学校協議会からの意見</p> <p>大阪学芸高校は、年々、女子にも人気のある学校となってきたことが在籍生徒の割合や志願者の男女比率から分析できます。保護者アンケートの結果分析や生徒アンケートの分析を見ても概ね、信頼感のある学校と協議会としては分析しています。</p> <p>1 学習面から</p> <p>(1) 「なぜ、勉強しなければならないのか」を教育のプロとして生徒に教え</p>
---	--

や係の仕事などを協力し合う雰囲気になっているか」という質問にも 15%の生徒が否定的回答を、「担任は注意すべき生徒に適切な指導をしているか」という質問に対しては 12%の生徒が否定的回答をしているところがあると分析しています。再度、学級経営等の研修を重ねながら教職員全体の指導力を高めていくとともに生活指導部を中心とし学校としての指導も強化していきます。

□学力と進路

保護者が子供に獲得させたい資質の第一位は「学力・知力」であり、「私立4年制大学への進学」を最も望んでいるという保護者アンケート結果から本校にとっては、その願いに応えるために学力の向上は「最優先課題」と認識しています。授業アンケートで「教科への信頼度は5教科平均が80.1%と高評価を得ていますが、「全科目にわたり学習指導は充実し学力向上に十分な成果を上げているか」という質問に61%しか肯定的回答をしていないことから満足いくレベルを得ていないことが分かります。その原因の一つとして新任教員の授業力向上の取り組みが不可欠です。相互授業参観、教科会の充実を通して教授法の伝達やICT教育の導入も視野に入れた教授法の改革にも次年度に向けて協議してゆきたいと考えています。

進学校にとっては「出口保障(進路保障)」によりすべてを判断されるという宿命を負っています。しかし、「進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実験に寄与しているか」という質問に生徒も保護者も61%程度の肯定回答しかありませんでした。これは「進学指導に必要な情報が十分提供されているか」という質問への肯定的回答と同様であることと関連しています。今後、生徒・保護者への情報提供が課題ととらえて進路指導部を中心に改善を図っていきます。

□信頼される学校

高校は公立小中学校のように地域を校区として持たないために保護者への情報発信が信頼関係を築いていく上で大切な要素となっています。三者懇談会や授業参観、進路講演会等を実施していますが友働きのため学校に来ることができない保護者に向けた情報発信をどうしていくかが課題となっています。特に進学校としての進路情報の提供は保護者の関心事あり、情報提供の工夫と改善は日々、努力を重ねていく必要があります。

「担任は進路指導について豊富な知識をもっているか」について86%の肯定的回答を得ていながら「保護者・生徒への情報提供」については74%の肯定回答に止まって言います。この12%の差をなくすとともに否定的意見の保護者の情報提供に工夫と改善を行っていきます。

てあげてほしい。進学実機を上げることも大切だが「何のために大学に行くのか」を子どもたちにも親たちにも訴えてほしい。

(2) 自学自習を学習の核として挙げていることは理解できる。企業でも新入社員の教育の柱の一つが「指示待ち人間からの脱皮」をあげている。自分で考え、自分で進んで行動し、失敗を謙虚に反省する社員は伸びるのでその基礎を高校で作っていただくことはありがたい。

(3) 以上のことを踏まえて考察すると「学習指導が学力向上に成果を発揮していない」割合が大きく評価指標を大きく下回っていることの改善は急務だと考えます。

2 生活面から

(1) 「基本的生活習慣」が学力向上の基盤となるという学校方針には大いに賛同できるし、気づきのない若者が増加している中でその大切さを学校方針にしていることもよいと思う。ただ、それらをいかに教育活動の中で具体化していくかは教員の力量にかかっていると思うので校長のリーダーシップに期待する。

(2) いじめを許さないという方針は理解できるが、学校のいじめ指導に不満を持っている生徒が11%いることを真摯に受け止めて対処してほしい。いじめアンケートを「記名式」にするなどの工夫もしてほしい。

(3) 精神的に不安定な保護者や過期待の親も増えている。親への研修をもっと増やすことが子供の生活改善につながるのではないかと。

3 保護者からの信頼度の面から

(1) 授業アンケートで評価の良くない教員に対してどのようなアプローチを行っているのかが見えてこない。

(2) 保護者への情報提供について学校側かせの発信方法の工夫が求められる。特に入試情報などの進学指導に必要な情報は十分に提供されている」の回答が60%は早急な対応が求められます。

(3) 特技コースの生徒たちの進路先を見て、少し驚いた。大学でもさらに特技を伸ばせたらと良いという好印象を得た。

4 今後の課題として

危機管理体制の確立、緊急時の対応には万全であることがもとめられることがあり、学校側が困難な立場に立たされることがあると思いますが、説明責任を果たせる管理体制の確立、緊急時の対応を整備してほしいと思います。

また、数字のデータ分析からすれば80%の良い回答があれば「成果あり」と判断しがちだが、20%の生徒が「満足していない」という現実を真摯に受け止め教育活動を深める姿勢は失わないでほしい。100%は無理かもしれないがそれを目指すのが教育だと思う。

3 本年度のとり組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生活指導を根幹に	1 基本的生活習慣の確立	SNS やメールの利用上のマナーも含め、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション能力の育成をめざし、特にツイッター等の使用方法の間違いから「いじめ事象」に発展しないようにし、生徒全員が安心して登校できる学校づくりを目指します。これを達成する心の基盤を次の点に焦点化し取組みます。	(1) 生活環境アンケートの「学級の規律度」を80%以上とします。	生徒にとって学級こそ学校生活の居場所であり、その居場所が落ち着いた規律性を保っていないと目標の達成はなりません。
	(1) 規律ある学級経営の確立 (2) いじめを許さない学校経営の確立 (3) ルールを守らせる毅然とした指導の確立	(1) 遅刻防止週間・服装違反撲滅週間等を定期的実施し、生徒の規範意識向上を図り規律ある落ち着いた学級づくりを行います。 (2) いじめ対策委員会を強化し、いじめアンケートを実施し、いじめのない学級づくりをおこないます。 ○いじめ対策推進防止法の研	(2) 学級経営評価アンケートの「いじめのない学級づくりに対する担任の姿勢の良さ」を90%以上にします。 (3) 生活環境アンケートの「生徒が満足する指導姿勢=毅然たる指導を担当がしているか」の高評価を80%以上とします。 (4) ルールを守り、より良い学校生活を望んでい	生活アンケート1 「自分の学級は、規律ある雰囲気のある中で生徒たちは過ごしている」の回答結果は次の通りでした。 全体 85% 1年 88% 2年 85% 3年 82% しかし、全体で15%の生徒が「そうと思わない」と回答しています。この原因として考えられるものが次のアンケート2~3に表れていると分析します。 生活アンケート2 「担任の先生は、学級でいじめがないように心がけている」の回答結果は次の通りでした。 全体 89% 1年 90% 2年 87% 3年 88% このアンケートに否定的回答をしている生徒が全体で11%あり、この数値は「先生の知らないところでいじめがある」ことを示しています。アンケートのやり方等も改善する必要があります。また、いじ

<p>据えた学習指導と進路指導の確立</p>		<p>修</p> <p>(3) 毅然たる態度でルール違反者を指導し生徒からの信頼感を高め担任と生徒との信頼関係を確立します。</p>	<p>る生徒から高い評価を受け信頼関係を築くとともに課題のある生徒に寄り添った指導もできる教職員組織にするように保護者連絡・家庭訪問等きめ細かな指導体制を作っていくように教職員研修を機会あるごとに実施していく。そのためにも「相談しやすい担任の姿勢」の肯定評価を 80%以上にする必要があります。</p>	<p>いじめ対策委員会主導の心の教育を学校としても教育活動の中にしっかりと位置づけする方策をさらに校務会議等で検討していきます。</p> <p>生活アンケート 3 「担任の先生は、注意すべき生徒に適切に指導している」の回答は次の通りです。 全体 87 1年 87% 2年 88% 3年 88%</p> <p>このアンケートから担任の指導に不信感を持っている生徒が 13%いるという認識を持つ必要があります。校則を守っていない生徒への指導を徹底し学級の秩序を整えていないという批判の声をわたしたち教員は真摯に受け止め、これらを改善することが規律ある学校生活の確立につながるものと分析し、教職員の指導力向上のための研究を積み重ねていきます。</p> <p>アンケート 4 「担任は教科以外のことでも相談しやすい」という肯定意見が 77%と目標数値に達していないことは改善点としてとらえられる。</p>
<p>2 学力向上と進路実現</p> <p>(1) 生徒による授業満足度や信頼度の増大</p> <p>(2) 進路指導に即した多様な講習の実施</p> <p>(3) 多様な希望進路に対応した教育課程の構築</p>	<p>本校の保護者の願いは、「4年制大学への進学」であり、そのため3年間でつけてほしい資質は「学力と知力」という結果が保護者アンケートから読み取れます。</p> <p>このためにも放課後講習、夏期講習、合宿講習（1年次）、冬期講習、大学入試直前講習（3年次1月）、春期講習を行います。多様な講座で学力の伸長を目指し、特に3年次では受験に直結した実践的な講習内容を行います。さらに3学年では校内予備校を開講、外部講師による即戦的な講義を受けさせます。</p> <p>(1) 進路実現のための「学習効果のある授業」を生徒たちに保障します。</p> <p>(2) 多様な進路希望に対応した講習を充実します。</p> <p>(3) 多様な進路希望に対応した教育課程を整えます。</p>	<p>(1) 授業アンケートの「学習効果が実感できる授業」の項目を 80%以上とします。</p> <p>(2) 生活環境アンケートの「多様な進路希望に対応した講習が行われている」の結果を 80%以上とします。</p> <p>(3) 生活環境アンケートの「様々な進路希望に対応できるような教育課程がくまれている」の肯定的意見を 80%にします。</p>	<p>私立高校にとっては、保護者の経済的負担をより増やさないためにも塾や予備校に行かなくても進路実現ができる学習形態を整えることが必要です。</p> <p>授業アンケート 1 各教科(国・社・数・理・英・体・情報・家庭・芸術)の授業に対する学習効果への信頼度は全体で 77%と高評価ですが目標には達していません。さらに高い信頼度を得るため、各教科担任に対する生徒の意見をフィードバックしながら授業力向上に向けた参観授業と指導を行っていきます。特に新任の教員に対しては、校長面談を実施し、改善に努めていきます。今後は ICT などの教育機器を導入した授業改善の必要があり次年度の課題とします。</p> <p>授業アンケート 2 「補習や講習は統合的に整備され、多様な進路希望に対応している。」に対する回答は次の通りでした。 全体 70% 1年 71% 2年 65% 3年 77%</p> <p>本校ではコース別に多様な放課後講習、夏期講習等を実施し、進路に向けた学習を行っています。しかし、この数値からはまだ改善の余地や生徒への啓発が必要と判断できます。講習内容が生徒のニーズに合致しているのかの点検も進路指導部を中心に行っていきます。</p> <p>授業アンケート 3 「様々な進路希望に対応できるように教育課程が整備されている」に対する回答は次の通りでした。 全体 77% 1年 78% 2年 75% 3年 80%</p> <p>本校は、2年進級時に自分の進路希望によってコース変更を可能としています。また、理系・文系・看護系など生徒のニーズに合わせて教育課程を編成しています。進路希望が複雑化してくる中で生徒との相談活動を充実し選択授業や実践演習等の時間を利用して対応していきます。</p>	
<p>3 社会性・協調性の育成</p> <p>(1) ボランティア活動の充実</p> <p>(2) 部活動の活性化</p> <p>(3) 行事の精選</p>	<p>本校は、セレッソ大阪とパートナーシップを結び合同で地域貢献活動やボランティア活動に取り組み生徒の自尊感情を高め豊かな社会性の育成図っています。</p> <p>また、施設に制約がある中で重点ク</p>	<p>ボランティア活動への積極的参加を促します。</p> <p>重点クラブの活動実績を近畿・全国レベルに引き上げます。</p> <p>行事を通して協調性を高</p>	<p>地域清掃活動やボランティア活動にも多くの生徒が参加できた。</p> <p>重点クラブでは近畿・全国レベルに達するクラブも育成できてきている。</p> <p>体育大会や文化祭を通して子どもたちに「成功体験」を積み重ねさせることができた。</p>	

		ラブを指定しその活動を応援していきます。さらに、行事を精選し体育大会・文化祭・人権研修会を通して協調性を高めています。	めていきます。 次年度は、数値目標で示すことのできる工夫を行います。	今後は、これらの取組を普段の生活にフィードバックできるようにさらに工夫を重ねていきたい。
2 信頼される学校づくり	1 保護者への情報提供 (1)開かれた学校づくり (2)信頼される学習指導の構築 (3)進路情報の提供	<p>高校は公立小中学校のように地域を校区として持たないために保護者への情報発信が信頼関係を築いていく上で大切な要素となっています。また、大学進学を目指して本校に進学させている保護者の願いに応えるため日々の学習指導が保護者から評価されることはもっとも信頼関係を作り上げる要素ともなります。</p> <p>さらにきめ細かな進路情報の提供を行っていくことも大切だと考えています。</p> <p>(1) 授業参観や懇談会等情報発信の充実</p> <p>(2) 信頼される学力保障の確立</p> <p>(3) 進路情報のきめ細かな情報発信</p>	<p>(1) 保護者アンケートの「この学校に入学させて良かった」という満足度を 80%以上とします。</p> <p>(2) 保護者アンケートの「担任との信頼関係」を 85%とします。</p> <p>(3) 学校からの情報発信に対する信頼度をあげていくこと地域を持たない私立高校にとっては大切であり、この点に関わるホームページへの満足度や進路情報に対する満足度を 80%以上とします。</p> <p>(4) 進路情報に対する信頼度を 80%以上とします。</p>	<p>私立高校にとっては、在校生の保護者が本校の良さをアピールしてくれることが最大の募集活動と言えます。そのためにも保護者の信託に応えた学力保障とともに情報発信をしていくことが大切です。</p> <p>保護者アンケート 1 「この学校に入学させて良かったので知り合いや親せきに進めたいと思う」に対する回答 肯定的意見 78% 分からない 11% 否定的意見 11%</p> <p>年々増えている在校生・卒業生の弟妹の受験生から着実に信頼を得ていることが分かる。しかし、まだ、目標数値に達しておらず、その原因を他のアートの分析し、さらに信頼度を高めていきます。</p> <p>保護者アンケート 2 「授業参観・懇談会・ホームページを通して学校の様子が分かるように発信されている。」 肯定的な回答 81% 否定的回答 12%</p> <p>ただ、ホームページから必要な情報を得ることができると答えた保護者の割合が 66%と低いことが今後の課題と言えます。皆瀬の努力をしていきます。</p> <p>保護者アンケート 3 「学習指導は充実し、生徒のやる気を引き出して効果的なものとなっている。」 肯定的な回答 62% 否定的回答 24%</p> <p>保護者からは学力面において 6 割程度の肯定意見しかないことが本校の課題ととらえ、さらに学習効果を上げるための手立てを教科会の充実や ICT 教育環境の整備を通して実施していきます。</p> <p>保護者アンケート 4 「入試情報などの進学指導に必要な情報は、十分に提供されている。」 肯定的な回答 60% 否定的回答 14%</p> <p>適性を見つめるキャリア・ガイダンスの実施や大学入試説明会や進路説明会を開催。また、高大連携による大学の出前授業や模擬実験などを行。生徒の進路希望の実現につなげることを行っていますが、十分、保護者に浸透していない現実があります。進学校としてこの数値は反省し、改善の手立てを考える必要があります。進路に対する情報提供の機会を今後、どのように増やし改善していくかを考えていきます。授業参観や保護者集会等の数値目標はクリアしていますがさらに参加者を増やす工夫を進路指導部と協議し行っていきます。</p>
	2 危機管理体制の確立 (1) 避難訓練の実施 (2) 防災計画の立案	<p>地球温暖化に伴う豪雨・地震等に備えて生徒の安全を確保することは学校にとって今後、ますます考えなければならない課題と言えます。</p> <p>(1) 避難経路の整備</p> <p>(2) 防災意識の向上</p>	<p>避難訓練を年2回以上実施</p> <p>防災意識の向上を図るための取り組みを2回以上行う。</p>	<p>高校在籍生徒が 2000 人近くいる本校にとって避難経路の確認と自分の命とともに他の生徒の命を共に守り避難する取り組みは欠かすことができません。4つの校舎に分かれている現状から次年度は校舎別の避難訓練実施も課題と考えています。</p> <p>また、今後は、保護者も含めて防災施設の見学や防災専門の人たちからの講話など防災意識の向上とも絡めて取り組みを行うことが必要だという認識を持って次年度の課題としていきます。</p>